

航空機関連の品質管理規格

大和合金が取得

始していた。取得の準備では東京都中小企業振興公社から助成を受けている。

航空機分野の売上高比率は現在3〜4%だが、今後は小型機普及や新興国での需要拡大で市場は拡大していく見通し。JISQ9100をテコに商圏を拡大し、将来的には1割まで高めていく考えだ。

銅合金の鑄鍛造メーカー大和合金（本社・東京都板橋区、社長・萩野茂雄氏）はこのほ

ど、航空機関連の品質管理規格であるJISQ9100を取得した。米国やヨーロッパの規格と互換性があり、海外市場での拡販に向けて弾みとなる。

航空機関連での主力製品はブッシュと呼ばれるランディングギア向けの加工品。アルミ

青銅や高力黄銅を円筒形に鍛造・押出している。これまでは国内でのビジネスが中心だったが、ここ数年で中国向けなどの受注実績も積んできた。

品質規格取得には鍛

造や熱処理など全ての工程で改善を続けていくことや、プロセスの有効性を検証することなどが求められる。昨年10月から評価基準を作りながら、規格に基づいた現場の運用を開

